

＜子育て＞過程における親の「学び」に向けた基礎的研究

—学会誌掲載論文の分析から—

永田 誠

A Basic Study of Parents Learning in the Child-rearing Process :
From analysis of articles published in academic journals

NAGATA, Makoto

大分大学教育学部研究紀要 第44巻第1号

2022年9月 別刷

Reprinted From

RESEARCH BULLETIN OF THE

FACULTY OF EDUCATION

OITA UNIVERSITY

Vol. 44, No. 1, September 2022

OITA, JAPAN

＜子育て＞過程における親の「学び」に向けた基礎的研究

—学会誌掲載論文の分析から—

永 田 誠*

【要 旨】 本稿では、学会誌掲載論文から関連学問領域において＜子育て＞がどのように語られてきたかを整理することで、学際的視点から＜子育て＞研究の特色を検討した。

学会の掲載論文数ならびに年代の把握からは、＜子育て＞研究は、20年余りの蓄積はあるものの、比較的新しいテーマであり、親の「学び」と子どもの「育ち」を生み出す＜子育て＞という教育的営為の意義を捉えるには十分ではないことが確認できた。一方で、その論文数はいずれの学会においても増加傾向にあり、子育て支援や家庭教育支援の政策的な登場を契機として、＜子育て＞への研究関心は広がりつつもある。それは、関連学会において主たる課題となりえず、研究的な狭間に置かれてきた＜子育て＞研究に対する理論萌芽への期待として捉えられよう。

【キーワード】 子育て 親の「学び」 家庭教育 計量テキスト分析

I 本研究の目的と方法

1 問題と目的

本稿では、学会誌掲載論文から関連学問領域において＜子育て＞¹⁾がどのように語られてきたかを整理することで、学際的視点から＜子育て＞研究の特色を検討する。これを通して、現代の親の＜子育て＞経験を通じた「学び」が、いかに親自身の子育て観や子ども理解の変容を促すかを解明するための実証的調査研究に向けた視角を検討したい。

＜子育て＞に関する研究は、テーマとしての汎用性は有するものの、個々の学会・研究者の課題関心等に応じた捉え方がなされており、概念的な曖昧さを有する。実際に、子育て中の親の「学び」(家庭教育・家庭教育支援)は社会教育学・教育学・生活体験学習学などにおいて親(成人)を主体としながら議論されてきた。一方で、保育学・乳幼児教育学は、子どもの育ちを支える存在としての親の「育ち」(保育・子育て支援)が語られている。加えて、家庭・家族の機能と変容については、家族社会学、教育社会学、家族心理学などで、子育てにおける社会的支援は、地域生活支援学・社会福祉学の福祉領域や地域保健・公衆衛生学等の保健領域で、専門職のアプローチから議論が重ねられている。これらの学問領域・分野での方法論としても、

令和4年5月31日受理

*ながた・まこと 大分大学教育学部発達科学教育講座(幼児教育学)

制度研究から比較研究、歴史研究、実践研究と多様なアプローチがなされている。

また、＜子育て＞をめぐる研究では、親が変容するという事象についての学問的・研究的な関心はあるものの、社会教育学では子育てにおける「親の学び」という用語が用いられる一方で、保育学では「親育ち」が用いられるなど、研究的知見についての領域間の対話は乏しい。そのため、『教育学研究』（2014）において「保育学と教育学の間」の特集が組まれるなど＜子育て＞をめぐる対話が志向されつつあるものの、あくまでも限定的であり、＜子育て＞という多様性や多義性の把握が一面的なものに留まる。それにより＜子育て＞に関する様々な問題状況が指摘され、政策的に解決策が提案されても、それぞれの取り組みが散発的となり、実践的な混乱や迷走をもたらすことにつながり、問題状況を解決するには至っていない。

したがって、＜子育て＞研究における概念規定の第一歩として、学会ごとにどのような捉え方がなされ、どこに相違点が存在しているかを学問領域ごとに整理することが求められる。こうした＜子育て＞に関する多義性を学際的に把握することで、今後の＜子育て＞研究における対話を生み出す一助としたい。

2 先行研究レビューの方法

＜子育て＞に関する学会掲載論文の量的把握の方法としては、①当該学問領域において全国規模かつ学術団体に登録されている、②設立からおおむね20年以上活動を継続している、③毎年度、学会誌・紀要等を継続的に発刊している、④＜子育て＞に関する研究テーマ・研究が実施されていると推察される、⑤図1に示す4分野に該当する学問領域である、の5つの条件を設定した。この条件に照らし合わせ、本稿の分析の対象として、以下の学会誌等を選定した²⁾。

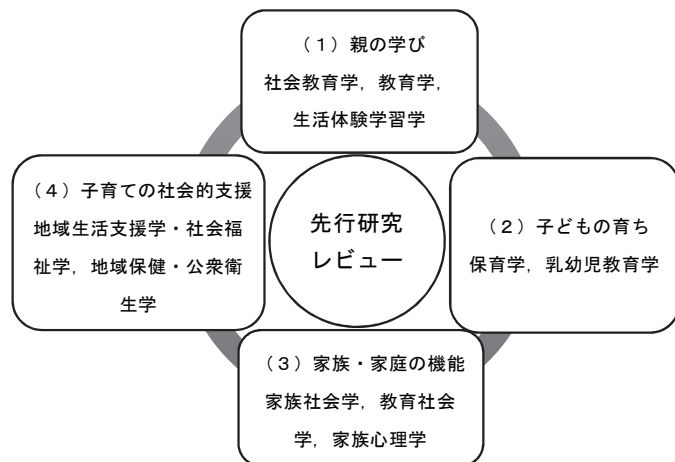


図1 ＜子育て＞研究の学問領域ごとの概念図

- (1) 親の学び：日本社会教育学会『社会教育学研究（日本社会教育学会紀要）』、年報『日本の社会教育』
- (2) 子どもの育ち：日本保育学会『保育学研究』
- (3) 家族・家庭の機能：家族社会学『家族社会学研究』、日本社会学会『社会学評論』
- (4) 子育ての社会的支援：日本社会福祉学会『社会福祉学』

上記の学会誌に掲載された論文のうち、本研究のキーワードである「子育て」「家庭」「親」「保護者」をタイトルに含む論文の掲載数ならびに掲載年を把握した。論文検索には CiNii

Articles を用い、2021 年 4 月～11 月の期間で検索・閲覧した³⁾。作成した<子育て>に関する学会誌掲載論文一覧を用いて、各学会の研究の動向・視角を把握するため、論文名から計量テキスト分析を行った。分析には KH Coder (3.Beta.04a) を用いた (樋口 2020)。

本稿では、<子育て>に関する学会誌掲載論文の推移を把握するとともに、論文題目の共起ネットワークを描くことで、学会間での研究の特徴を明らかにする。また、<子育て>に関するキーワードを学会間で比較することで、<子育て>研究における視角の検討を試みた。

II 関連学問領域における<子育て>に関する先行研究の量的把握

1 日本社会教育学会における<子育て>研究の動向

日本社会教育学会は、1954 年に設立され、会員数は約 1,000 名を要する教育学系の学会である。日本社会教育学会において「子育て」「家庭」「親」「保護者」をタイトルに含む論文掲載数と年代は図 2 の通りである。なお、「保護者」をタイトルに含む掲載論文は確認されなかった。

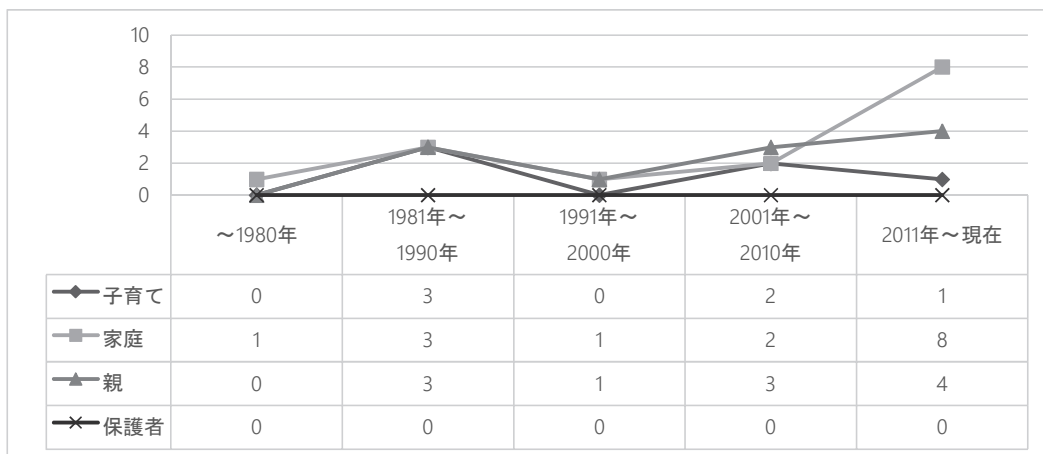


図 2 日本社会教育学会における<子育て>掲載論文数の推移

日本社会教育学会における<子育て>関連の掲載論文数を見ると、①学会誌への掲載論文数としては必ずしも多くない、②2000 年代以降の掲載論文が 20 本 (62.5%) を占めており、2000 年代以降に掲載論文数が集中している、③「子育て」「家庭」「親」のいずれも増加傾向にある、の 3 点が確認できた。また、1980 年代に論文数が増加した要因としては、年報『日本の社会教育』において第 26 集『婦人問題と社会教育』(1982 年) と第 32 集『現代家族と社会教育』(1988 年) の発刊があることも確認できた。

日本社会教育学会における<子育て>掲載論文題目の傾向としては、「家庭を学校や地域の連携として捉える」視点が明示されるとともに、「親による子育てをどのように地域で支援するか」や「家庭教育支援や子育て支援といった社会教育事業・実践をいかに展開・支援するか」という問題意識が看取される。(図 3)

これらの結果からは、日本社会教育学会では、2000 年代以前から家庭教育や親に対する研究関心が一程度存在していたものの、<子育て>は必ずしも学会の主要な研究関心とはなりえず、

家庭教育における理論蓄積は限定的であった。ただ、1990年からの子育て支援や家庭教育支援の政策的な登場を契機として、2000年代から家庭教育の捉え直しや研究対象・フィールドとなりえてこなかった実践への関心が集まりつつあることが理解できる。特に、学習主体として親を捉える研究の視点に、その特徴を見ることができよう。

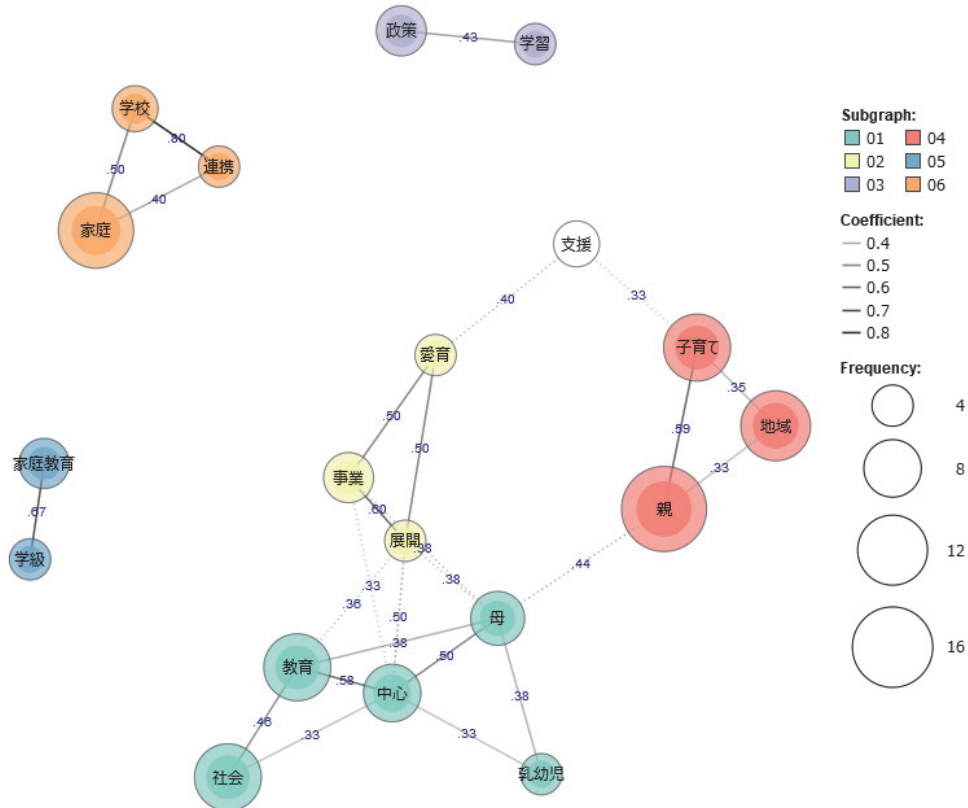


図3 日本社会教育学会における<子育て>掲載論文題目の共起ネットワーク

2 日本保育学会における<子育て>研究の動向

日本保育学会は、1948年に設立され、幼児教育・保育学の研究者に加え、幼稚園教諭・保育士等の実践者も参加する、会員数6,000名を超える学会である。日本保育学会における「子育て」「家庭」「親」「保護者」を題目に含む掲載論文数と年代は図4の通りである。

日本保育学会における<子育て>関連の掲載論文数を見ると、①「親」と「保護者」をあわせた論文数が61本と最も多く、施設保育・保育者だけでなく、親にも研究的関心が一定程度存在する、②2000年代以降の掲載論文数が占める割合が91.5%と急増する、③他のキーワードに比べ「家庭」をタイトルに含む論文数は少なく、子育ての場としての家庭の位置づけは低い、という3点が確認できた。

また、日本保育学会における<子育て>掲載論文題目の傾向としては、①障害児を含む乳幼児の発達と保育相談支援活動の検討、②幼児教育における家庭との連携と保育者との関係構築、

③子育て支援活動における親・保護者支援, ④地域子育て支援センター等の施設・事業の意義, といったテーマが読み取れる。(図5)

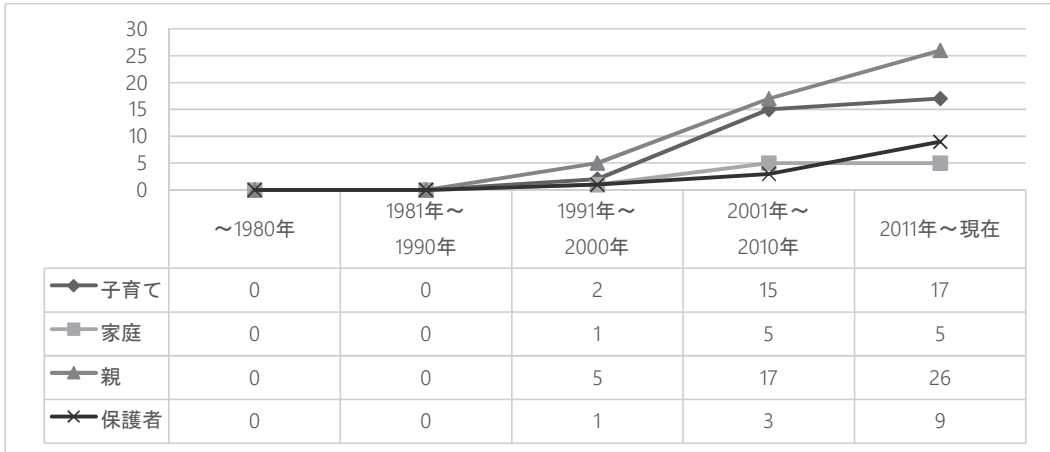


図4 日本保育学会における<子育て>掲載論文数の推移

図5 日本保育学会における<子育て>掲載論文題目の共起ネットワーク

